

# 楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第20号

令和6年(2024年)1月18日  
文責 校長 佐藤 政臣

## 自ら考え、よりよく行動する人を育てるには

本校の学校教育目標は、「①夢を持ち ②自ら考え ③よりよく行動できる 児童の育成」です。これには、「①目指す方向性を決め→②それに向かって自発的に考え→③考えたことを行動に移す」という3つの要素があり、夢に向かって、自ら学び、トライ&エラーを繰り返しながら前向きに挑戦し続けてほしいという願いがこめられています。では、そのような人を育てるためには、どのようなことが大切なのでしょうか。

2023年夏、全国高等学校野球選手権大会(甲子園)の決勝戦をご存じでしょうか。決勝戦は、慶應義塾高等学校 VS 仙台育英学園高等学校の2校で行われました。この2校は、今までの高校野球のチームとは、何か違う雰囲気を感じます。私は、この2校の監督の「人を育てる」手法に興味を持ち、それぞれの監督の著作物を読みました。

まず、慶應義塾高等学校の森林貴彦監督の著書「Thinking Baseball (東洋館出版)」を引用して述べます。森林監督の職業は、小学校(慶應義塾幼稚舎)の先生です。つまり、高校の野球部の監督と小学校のクラス担任を兼務しているということで、超多忙な日々を送られています。

その森林監督は、今の子どもたちは、何でも「教えてください」と聞いてきて、それに対して大人がすぐに教えてしまうことを嘆かれています。

これでは、「自然と自分でつかむ」という経験ができず体得することができません。子どもたちに身に付けてほしいことは、「①困難を乗り越えた先の成長を経験すること」、「②自分自身で考えることの楽しさを知ること」、「③スポーツマンシップを身に付けること」で、この3点を大事にして指導していると本書では述べられています。



次に、仙台育英学園高等学校の須江航監督の著書「仙台育英 日本一からの招待 幸福度の高いチームづくり (KANZEN)」で須江監督は、**高校野球に取り組む目的を「①目標を達成するための思考法」、「②物事を本質から理解して判断する能力」、「③自己を律して自己を確立し、問題と向き合う能力」の3つの力を身に付けること**であると述べています。

この2人の指導者の共通点は、「目標達成のために、自ら考え行動し、失敗を力にして自己分析し、次に向かって前向きに行動する人間を育てるために、直接指導というより、生徒に考えさせ、その考えを引き出す指導」をされているように思いました。頭ごなしに叱ったり、教えたりするような指導ではなく、子供の内面に迫る指導法について書かれたこれらの本は、人を育てるという観点からも必見です。子育ての参考にしてみたいかがでしょうか。



## 誰かの役に立っていますか

12月、全校児童にアンケートをとりました。「誰かの役に立っていますか」という問いに、「役に立っている、少し役に立っている」と肯定的に答えた児童の割合は、以下の通りでした。

1年生(85.7%)、2年生(67.3%)、3年生(80.3%)、  
4年生(82.4%)、5年生(71.1%)、6年生(77.4%)

私は、この結果に少し驚きました。家で過ごしている時は、「自分のことだけ」に時間を使っているのでしょうか。家族のためにお手伝いなどを頑張っている子は、家族の一員として役にたっていると感じるでしょう。高学年の児童では、約3割の児童が、「誰かの役にも立っていない」と答えています。家庭科では、家族の一員という学習をしますが、家族の一員としての役割が実際に果たされていないと感じました。また、学校の委員会活動や係活動なども、周囲の人のために、前向きに努力しようという思いで取り組んでいるのではなく、しかたなくやるという自主性のない活動になっているのかもしれませんが。小学校の高学年でしたら、家事等の仕事を考えさせ、それを責任をもってやり遂げるような習慣をつけることで、精神的に成長してほしいと思います。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい  
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小HP

